

第30回東北地方小委員会

【議事録】

○議事

1) 計画段階評価

・国道108号石巻河南道路

浜岡委員長 それでは議事次第に従いまして、議事に入りたいと思います。国道108号石巻河南道路について、事務局より資料の説明をしていただきまして、その後、質疑応答するという流れで進めていきたいと思っています。それでは説明よろしくお願いたします。

中尾所長 仙台河川国道事務所所長の中尾です。早速、私の方から説明させていただきたいと思っています。

資料1の2ページ目をご覧ください。今回の評価対象区間ですが、国道108号の起点となる45号接続部から約1.1kmの区間でございます。

次のページをご覧ください。前回の委員会は、昨年末12月に開催され、このときには第1回目の意見聴取をした結果等ご報告させていただきました。その中で、指摘事項に記載の通り、アンケートの回収率が1.4%と低かったことから、これを上げる検討をするべきだご意見等いただいております。事務局の方で検討させていただき、広報誌にアンケートを綴じる形だと気づいてもらえないかもしれない、郵送した方が見てもらえるのではないかとということが分かり、対応状況の下から2つ目にありますように、対象区間の利用が多く見込まれる地域については全戸郵送配布、その他の地区は抽出して郵送配布で対応しております。さらに、その下にありますように、地域の平均的な世帯人口の数を参考に、ハガキを封入する枚数を3枚にしております。こうした対応をして、今回そのアンケート結果をご報告させていただきます。

4ページにありますように、赤枠で囲んでいるところが今回の小委員会の位置付けです。申し上げましたように、第2回の意見聴取結果の報告を行い、それを踏まえて対応方針としてルート案を検討し、ご提示しますのでご意見いただきたいと思っています。

次に6ページをご覧ください。右に地図がありますが、ページで着色したところの石巻市河南地区、蛇田地区、石巻地区につきましては対象路線を正に密接する地区で、全戸郵送配布してアンケートを実施しております。それ以外の着色地域については、抽出配布しております。結果としまして、左の表1にありますように、世帯数で数えますと、配布数は約52,000配布しまして、約6,000の回答をいただいております。回収率でい

けば11.5%ということで、かなり改善した状況でございます。返ってきたハガキの枚数で数えますと約13,700件、その他ウェブ等でもアンケートを回収している状況です。その下に事業者のアンケートの回収状況も書いております。308件のご回答をいただいている状況でございます。その下に表2があります。ヒアリングも今回実施させていただきまして、関係機関や事業者、計64のヒアリングをさせていただいております。

次に8ページをご覧ください。アンケートにご回答いただいた方々の属性になります。左上図1に、ご回答いただいた方々の地域別のシェアを示しております。石巻市が多くなっておりますが、その右下、参考と書いた円グラフについては、どの地域にどれだけの配布をしたか、そのシェアを記載したものです。円グラフを見比べていただくと、このシェアが大体同じですので、どの地域の方々にもご関心を持ってご回答をいただいたという状況でございます。右側の事業者アンケートにつきましては、約半分が石巻市、他の地域からもご回答をいただいております。下の表2にありますように、山形の方からのご回答もいただいております。非常にご関心を持って遠方からもアンケートに参加いただいた状況です。

次に9ページをご覧ください。ご回答をいただいた方々の属性になります。男性が約6割、40代から70代の方が約7割、就業者が5割ということでございます。事業者アンケートにつきましては、運輸業、製造業、卸売・小売業の方々等にご回答いただいております。

次に10ページをご覧ください。これは、道路の利用状況についてご回答いただいた方々の結果でございます。住民の方、事業者の方も一番左側の円グラフ利用頻度を見ていただきますと、週1回以上当該道路を利用する方々が約5割になっております。利用手段としては、真ん中にありますように、殆どの方が自動車ということでございます。一番右の円グラフにありますように、住民につきましては、その利用目的が通勤・通学、仕事等、日常的なものが3割、家事・買物3割、等でございます。事業者につきましては、運送・営業等で約6割、従業員の通勤が約2割というような結果になっております。

次に11ページをご覧ください。次は市町村別の利用頻度になります。週1回以上お使いいただいている部分を赤の線で囲んでおりますが、これ見ていただきますと住民・事業者ともに対象区間に近い方が、利用頻度が高いという状況でございます。

次に12ページをご覧ください。これまで政策目標として5つの項目を立てておりました。

- ・道路の走行性や安全性を確保すること
- ・医療施設へ早く行けること
- ・観光地へスムーズに行けること
- ・地域産業にとって利便性が良いこと
- ・災害時に道路が機能すること

でございます。その他配慮すべき事項として、

- ・土地利用への影響が少ないこと
- ・自然環境への影響が少ないこと
- ・整備に関する費用が安いこと

を配慮すべき事項として挙げておりました。そしてアンケートの中で、この中でどれが大事ですか、重要とお考えですか、ということを探ねたところ、走行性や安全性を最も重視されるようなご回答をいただいております。その他、災害時に道路が機能すること、産業にとっての利便性が大事だということで多くの方にご回答いただいております。

13ページをご覧ください。今回、更に踏み込んだ調査をしております。皆さんに何が重要か項目を選んでいただきましたが、具体的な意見を書いてくださいということで、整理したものがこちらになります。

走行性や安全性という観点で最も多くの意見をいただいておりますが、幅員が狭いという課題や、安全対策の課題が挙げられております。災害時に道路が機能するという意味では、内陸部への避難が課題、重要なのではないかとということでご意見をいただいております。産業の利便性という意味では、大型車のスムーズな走行性という観点のご意見、医療施設へ早く行けるといった観点では、救急車の走行性の課題等挙げられております。観光という観点では、やはり観光地にスムーズに行けること、というようなご意見をいただいております。

そして、これまでに無かった新しい視点として、産業と観光のところで市街地との結びつき、内陸部との結びつきが大事だということが挙げられている状況です。

次に14ページをご覧ください。ここは先ほど、何が重要かという項目を選んでいただいた形ですけれども、それ以外に重要なことがあれば書いてください、ということで回答いただいたものです。整備方針に関する意見を相当いただいております。これはルート案を3つ示してありまして、そのメリット・デメリットを書いてきていただいたということでございます。その他、混雑・利便性、早期整備、道路構造に関するご意見などいただいております。

次に15ページをご覧ください。関係機関や事業者ヒアリングを行ったものをまとめております。整備にあたって、こういったことを配慮すべきかといったご意見をヒアリングしたものです。

まず、走行性・安全性という観点、蛇田地区で商業施設などの集積が進んで、道路の混雑が激しくなっているというご意見、車線が減少するところがある課題や、幅員が狭いといったご意見をいただいております。

災害時の道路機能、市街地への緊急出動で課題があるということや、内陸方面へのルートで課題があるといったご意見、産業と観光という意味では、先ほど申し上げたのと同じように市街地や内陸とのスムーズな繋がりが課題として挙げられており、いろいろご意見をいただいている状況です。

次に16ページ、こちらがまとめになります。まず、どんなことを重視すべきなのかという点で、走行性や安全性を重視すべきだというご意見が最も多かったという状況でございます。そのほか安全性の確保や道路幅員が狭小であるといった課題が挙げられた中で、観光と産業においては、内陸・市街地との結びつきといったところが挙げられた状況でござ

ざいます。

16ページの右下にありますように、そのような結果を踏まえ、最も皆さんから重視すべきというご回答をいただいた「安全・安心」や、内陸・市街地との結び付きという新しい視点を挙げていただいた「産業と観光」の観点に照らし合わせ、道路状況と突き合わせて課題を再整理しております。

まず、17ページですが、安全・安心という観点で課題を再整理しております。

対象区間の地図の下に幅員狭小区間を黒帯で示しております。更にその下に、歩道設置の有無を整理しています。見ていただきますと、マークをつけた蛇田地区、広淵地区は、幅員狭小や歩道が無いといった課題を持っております。

真ん中より下の辺りには死傷事故率を整理しております。交差点の事故率を赤棒で、ピンク色の帯の高さで単路部の事故率を整理しておりますけれども、蛇田地区、広淵地区につきましては、事故が非常に集中している区間だということが見ていただけだと思います。

更にその下、プローブデータで速度の状況を整理しておりますけれども、これらの区間につきましては、速度低下も集中しているという状況が見ていただけだと思います。

次に18ページになります。蛇田地区が置かれた状況として、右に航空写真を付けております。青線で囲んだ復興新市街地が整備されたり、赤線で囲んだ商業施設がどんどん集積されたりということで、その下のボックスで出された意見を整理していますが、集中が進んで渋滞が激しくなっているというお話がありました。航空写真をみると緑の県道石巻鹿島台色麻線に沿ってイオンがありますが、県道を左の方に進んでいくと紫の108号がございます。ここで車線数が減少して危ない、というようなご意見もいただいている状況です。

次に左の方の広淵地区になります。航空写真を載せておりまして、ピンク色で集落が集中して点在する場所を示しております。集落がありますので生活交通がありますが、左側の円グラフをご覧ください。内々の交通だけではなくて、通過交通、内外交通、相当なものを占めております。このようなことから、左下にご意見を整理しておりますけれども、108号はやっぱり重要な生活道路であるが、大型車が走行する道路がもう1本有ると良い、というご意見や、一番下の生活道路等通過交通の分散が必要ではないか、というご意見をいただいているところです。

次に19ページをご覧ください。これは産業という視点で、課題を再整理したものでございます。下の地図にありますように、左の方に赤色で塗りつぶした須江地区産業用地が整備されております。16の企業が入って稼働中でありましてけれども、ここからの車両の発着の状況を示したものが図1になります。この須江地区から比較的多くの車両が市街地に向かっております。主なルートをその下の地図、須江から市街地に向かってどこを通っているかというピンク色で経路を示しております。このルートの中で菰継交差点から須江地区に渡って、幅員狭小の区間があり、途中から県道の方の利用が多くなるわけですがけれども、県道の方は4車線区間ということで多く利用されている中で、須江地区から市街地

へのアクセス性が向上することが、非常に産業にとって支援になるということや、車線減少の課題が挙げられている状況でございます。

次に20ページをご覧ください。観光という観点で課題を再整理しております。図1に石巻市の観光入込客数を記載しておりますけれども、かなり特化している状況です。右の表1にありますように、「いしのまき元気いちば」も最近整備され相当な賑わいを見せておりますし、図3に書いてありますように「復興祈念公園」も完成予定ということで、今後さらなる賑わいが期待されているところでございます。

一方、内陸部に目を向けますと、下の図にありますように、「鳴子峡、鳴子温泉等」の観光スポットがあるということで、その中で観光分野の方にお話を聞くと、この108号ピンクで書いたルートが皆さんにお勧めされているという状況でございます。こういった状況を見据えながら、いただいたご意見を振り返りますと、ルートの中で内陸・市街地の結び付きが重要であり、円滑な走行ができることが重要だというご意見をいただいているところです。

続きまして、22ページをご覧ください。政策目標やご意見等を踏まえまして、用意しているルート案がこちらの3つになりますけれども、まず、案①になります。これは青の線で示しておりますが、全線バイパスで整備、石巻女川インターチェンジへ最短で接続する案でございます。次に案②、これも全線バイパスですが、緑色で示したルートになります。石巻港へのアクセスを考慮して、途中の県道豊石交差点で県道河南石巻港インター線に接続した上で、石巻女川インターチェンジに向かうルートでございます。次が案③、現道拡幅とバイパスを併用する案でございます。これは県道河南石巻港インター線にバイパスで接続、現道拡幅で石巻河南インターチェンジに向かう案でございます。

23ページをご覧ください。政策目標等の観点で、3つの案の優劣を整理しております。まず走行性・安全性の観点で、案③は現道拡幅のため、現道の課題まで含めて解決されるということで、案①と案②に比べて、優れているのではないかとということでございます。次に、三次救急医療施設へのアクセスでは、石巻赤十字病院は石巻女川インターチェンジ近くにあることから、案①、案②の方がそこに直結するバイパスということで、より優れた案であるという評価をしております。次に、観光地への連絡性ということで、これにつきましては市街地へのアクセスが現道拡幅でしやすくなるということで案③が最も優れているという評価。産業を支えるという意味では、石巻港に加えて市街地へのアクセスがしやすくなる、その両面のメリットを持っている案③が最も優れているという評価をしております。防災拠点への輸送の確実性という観点では同じ評価。更にその配慮すべき事項という意味で、土地利用への影響という意味では、案①が全線バイパスで整備され、最も分断を防げないということで案①が一番優れている。自然環境への影響という意味では、バイパス区間が一番短く現道を利用するというので、案③が一番影響が少ないのではないかと。あとは経済性という観点では、粗々の評価ですけれども、ここにお示した通りとなっております。

これを見比べてみますと、案③が色々な観点で他の案に対して優れていると分析をいたしまして、24ページにありますように案③をルート案として整理させていただいております。

次に27ページをご覧ください。このような分析を踏まえて、ルート案の第③案ということで、宮城県に意見照会をしたところ、対応方針について同意するというご返事をいただいております。下の方にその趣旨が書いてありますけれども、今ご説明してきたような趣旨で期待しているということが書かれております。

次に最後の30ページになりますが、案③で整備する中で、断面のイメージを示しております。バイパスにつきましては、盛土構造で広域交通と地域交通を分割し、アクセスコントロールして広域交通について速達性を確保する構造、現道拡幅区間につきましては、4車線化をして、歩道もしっかり確保し安全を確保していくという案です。このルートでお認めいただけましたら、こうしたイメージをベースに今後詳細な検討をしていきたいと思っております。説明は以上になります。

浜岡委員長 ご説明どうもありがとうございました。それでは、今ご説明いただきました概要につきまして、何かお気づきのことなどございましたら、ご意見いただきたいのですが如何でしょうか。

浜岡委員長 それでは、私の方から、まずアンケートについてですけど、6ページですが回収率が11.5%と以前と比べて数段高くなったということは、多くの方々から意見をいただいたということで、非常に宜しいことではないかと思っております。色々と準備やアンケートの案内ですとか、大変だったのではないかと思いますけどどうもありがとうございました。

それで、2つ質問が有りまして、1つ目が、今回の対象区間が西側の河南地区から東側の蛇田地区までということで、東側の終点が国道45号線に接続するまでですが、今回の最終的な対応では石巻河南インターのところまでということで、少し手前で終了することになるということで、その先はもう何も無いのですかということです。というのも、17ページの資料ですが、旅行速度を示したものですけど、インターチェンジを少し過ぎたところで速度が低下しているところが見られます。これがどういう原因かというのは十分に私は分かっていないのですが、ここへの対策も整えるというのも重要ではないかと思ったので、もしこの中で対策まで含められるならば、更にこの地域の道路がうまく使われるのではないかとお考えだったので、その可能性等についてお聞きしたいというのが1つです。

2つ目は23ページです。ルート帯案の検討ということで、案①から案③が示されている中で、最終的に案③になったということですが、案③は現道拡幅+バイパス併用案ということで、都市計画決定を既にされていた現道の部分をうまく拡幅してバイパスを整備する、他のところは全線バイパス。今まで見ていますと全線バイパスの方が支障家屋の少なさとかで、トータルとしてのコストが少なくなっていた気がするのですが、今回において

は、これが逆になっているということで、何か地盤条件が影響になったのかどうか、そのあたりを含めて教えていただきたいと思います。以上、2点です。

中尾所長 まず、一つ目のご質問にお答えします。17ページをご覧ください。

今回は、菰継交差点から壘石交差点を現道拡幅して、県道の方は既に4車線化になっておりますので、こちらに主な交通を結びつけていく、という整理をしております。ですので、今回の事業の整備としては、県道の方は特に対応がございませんので、ここまでということになっておりますけれども、その中で菰継交差点から右の方がまだ課題が残るのではないかとということですが、ここに速度低下のデータが整理されておりますのは108号のデータでございます。今回4車線化の整備がされることで、一層県道の方に車両が円滑に流れていくということで、交通量が108号の丸井戸交差点から菰継交差点の間で減るのではないかとということで状況の改善が期待されます。

さらに、この地域は歩道が無く、通学で非常に危険な思いをされている生徒がいます。その中で今回この事業の中ではないのですけれども、この案でお認めいただけるのであれば、別の形で地域の方々の意見を聞きながら108号の残った区間については生活道路用の防護柵を作ったり、速度を抑制する舗装路面の改善をしたり、色々な対策があり得ますので、この事業だけではなく別途取り組む旨も対応をしっかりとしていきたいと思います。

浜岡委員長 ありがとうございました。一つ目について、17ページの表を見間違えて、県道の速度かと勘違いしておりました。二つ目の質問は、案①から案③までの総コストについてです。

中尾所長 23ページであります。22ページを見ていただいた方が良いかもしれませんが。22ページに3つの案がございますけれども、コストという意味で、青い線(案①)のところを通りますと、軟弱地盤を相当通るということで、その対策でコストが大きくなる面がございます。一方、緑の案②を選びますと、蛇田地区でピンク色の人が住んでいるところを比較的通るということで、土地の補償等色々な費用が膨らんでくるという事で、現道を利用する案③が最も経済性に優れており、実はアンケートの中でも整備にかかる費用を、その他の配慮すべき事項の中では挙げられておまして、それが重要だという方はかなりおられました。案③は、正にそれに答えるものだと思います。

浜岡委員長 分かりました、どうもありがとうございます。そのほか、如何でしょうか。

宮原委員 宮原です。参考までにお伺いしたいのですが、24ページの図になります。

24ページで広渕側のアバウトなルートが示されていますけれども、広渕の現道で問題になっていたクランクの部分ですが、例えば将来的にバイパスが整備された時に、広渕地

区のクランクのところの整備について、先ほど所長さんが仰っていた東側の108号は、もう少し子供たちの通学がしやすいような対応するというお話がありましたけれども、広渕の方はどのような形で残されていくか、また追加の整備があるのか、というのを伺いましたのですが。

中尾所長 この直角に曲がっている区間ですけれども、やはり一番課題になっているのが大型車の円滑な走行性でございます。大型車につきましては発着がこの地というよりは通過交通が多いということで、今回生活道路と広域的な移動をサポートするバイパスに分けたらどうかという考えでございます、この案③でいきますと、まずは大型車がここを通る量は相当減るのではないかと推測しております。そうした意味で、今の状況が改善されるのではないかとと思いますが、整備をした上で課題が残るという事であれば、また検討していきたいと思えます。

浜岡委員長 はい。では、次よろしく願いいたします。

小林委員 小林でございます。今回、アンケート調査や事業者の聞き取りの中で、ご説明にもありましたけれども、産業面の効果や観光面の効果をこれまで以上に配慮していただいたのかなと、まずは御礼を申し上げたいと思えます。そういった観点から1点ご質問があるのですが、25ページの途中でちょうど長い楕円のところ、緑の線で石巻港に繋がる県道河南石巻港インター線がありますよね。おそらくそこは工業団地から色々な物流面でトラックなどの行き来が活発になってきているのではないかとと思うのですが、こちらの県道は片側1車線とか2車線とかになっているのでしょうか。なぜそれをお聞きするかというと、バイパスが整備されて片側2車線になると、こちらが1車線ですと港に行くトラック等が渋滞で詰まってしまうことがあるのかなと懸念しております、そのことをお聞きしたいのと、ここで分岐されることになるので、分岐の構造をスムーズに分かれて移動するようにする、渋滞にならないような構造に是非していただければ、より効果が上がるのではないかとしますので、そこを教えていただきたいと思えます。

中尾所長 ありがとうございます。県道河南石巻港インター線については片側1車線の状況でございます。路線の容量に対して混雑度がどうかということになりますと、現状1を切っておりますし、整備後も大きく1を超えることは無いということで、分析しており特に、大きな課題は無いと理解しております。更に、ここに接続するというので、ご指摘の通りここの交通のやりとりがスムーズにいかなければ本末転倒になりますので、今後の詳細なルートや構造の検討の中でしっかり踏まえてやっていきたいと思えます。

菊池委員 すみません、前回は質問したかもしれないのですが、はじめに委員長が質問された点と同じ点、17ページのところで旅行速度は108号ということは理解しているのですが、18ページの図5の航空写真を見ると、現状でも緑の県道に直線的に繋がっているわけで、敢えて108号の右側の方に入っていくには曲がらないといけないような構造になっている現状で、前回にたしか伺ったときには現状では真っ直ぐに流れている、というお話ですね。ということは、ほとんど108号菰継交差点から右側部分の108号には流れていないのですが、かなり速度低下しているというのと、新金沼の交差点もひとつ飛び抜けて死傷事故率が高いのですが、どういう原因なのかということは分析されているのでしょうか。108号の方に菰継から右側の方に流れてないにもかかわらず、これだけ速度低下が起きていて事故もポイントとして高いところがある。これは恐らく現道拡幅しても現状通り真っ直ぐ行くので、菰継より右側の108号に行っている人は確信的にこっちを通りたいと思って行っている人ということであれば、ここが円滑に繋がったとしても、ここの渋滞が解消されませんし、新金沼の事故が出ている部分は、引っ込まないような気がするのですが、この辺の分析はされているのかどうかということですね。

あともう1点、合わせてこちらは質問というよりもお願いなのですが、ルート帯のお話ですので今回は色々と分析されて、新しい視点で出てきたということで、資料の方については納得しましたけれども、やはり気になるのは菰継交差点の在り方ですね。このルート帯で、ここまで整備・拡幅して要望の高い市街地へのアクセスも円滑にするかどうかは、菰継交差点の運用の仕方によると思うのです。ルート帯としては計画に入らないと思いますけれども、是非どこかに事業としてこの在り方を円滑に流れるように計画しないといけないということは、どこかに残しておいて欲しいなと思った次第でございます。2点目は単なる意見です。

中尾所長 データを探します、お待ちください。今の回答になりますけれども、須江産業用地付近の国道108号を走行する車を分析した結果、県道を利用する交通は全体の50%、国道108号を利用する交通は約4%となっています。そのため、国道108号が速度低下や事故率が高いというのは、通過交通が影響しているのではなく、付近の利用交通によるものと理解しています。そのため、スムーズな4車線化をして1本通ったルートとして整備することで、更に県道の方へ利用しやすくなるという思いであります。

菊池委員 抜け道として利用されないくらい交差点の運用を適切に計画していただきたいと思います。

中尾所長 菰継の方も含めて、ご指摘いただいたことは踏まえたいと思います。

浜岡委員長 そのほか如何でしょうか、宜しいでしょうか。

皆様方、意見どうもありがとうございました。意見をお聞きしますと、新しく整備されたという時に、旧108号と言うのでしょうか、今使われている108号について、どのようになるかということは、先程所長の方から東側区間については生活道路主体になるようにですとか、渋滞交差点についての対策を行う、また広渕交差点についてもトラックが少なくなるということではありますけどしっかりと対策をする、という事で懸念されているところはクリアになるだろうということでご説明がありましたし、インター線との接続についてもしっかりとご配慮をいただくということで、今回の整備に関して否定的なものでは無かったのではないかと思います。様々な確認をしたということになるのではないかと思います。ですので、このことにつきまして概ね妥当で進めて良いという風に考えていきたいのですが、如何でしょうか。宜しいでしょうか。

ありがとうございます。事務局の方で本日の意見が幾つか出ましたので、それについてしっかりと対応を踏まえて、今後検討を進めてもらいたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

以上で計画段階評価についての審議が終わりになりましたが、全体を通して何かございますか。はい、お願いします。

菊池委員 この委員会でこういう資料に触れることは多いですけども、別の機会があるのかもしれないですが、実際に整備した後に事故率がどうなったのか、ということは気になるところで、我々が一生懸命議論をしている方向が間違っていないかという事のチェックにもなりますので、委員会の場かどうか別にして、整備された区間について事故がこういう風になりましたということを、どこかでご紹介いただけたらと思いました。

事務局田中課長 ご意見いただきましてありがとうございます。整備局の方で、新しく整備をして開通をしたようなタイミングで、このような効果がありましたということで開通後に記者発表等を行っておりますので、菊池委員の方からいただいた観点も踏まえた上で、整備が終わった後どうなったかということを、1つのポイントとしてまとめたいと思っております。

浜岡委員長 それでは最後になりますが、本日の委員会資料の公開非公開について確認したいと思います。本日の会議に提出された資料につきましては、整備局のホームページに公開するという形で行きたいと思いますが宜しいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、本日の資料一式については、公開するということにさせていただきます。また、議事録につきましても、速やかに公表するという事になっておりますが、事務局の方から宜しくお願いします。

事務局田中課長 本日ご審議いただきましたポイントをまとめた議事概要につきましては、速やかに作成しまして、委員長にご確認して頂いた上で公表させて頂きたいと思いません。詳細な議事録につきましては、後日、委員の皆様にもメール等で送付させて頂きまして、ご確認いただければと思っております

浜岡委員長 議事録につきましては、ただ今の対応で宜しいでしょうか。

ありがとうございます。それでは議事概要につきましては、私の方で責任をもって確認させて頂きたいと思えます。以上で、本日の議事を終了いたします。議事進行を事務局の方にお戻しします。

司会 浜岡委員長、並びに委員の皆様方におかれましては大変ご丁寧なご審議を賜りまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、社会資本整備審議会 道路分科会 第30回東北地方小委員会を閉会させていただきたいと思えます。ありがとうございました。